

一般情勢報告

四

我が神戸海友同志會が、神戸に在住せる港灣労働者の生活解放のために、昭和四年十二月六日、僅かに心ある六十数名の同志と相謀り、その創立の宣言を中外に聲明してから、既に四年の歳月が流れた。

この時期は、世界に於ける資本主義が、世界的株式恐慌によつて、全國中小工業と交通運輸事業の全部門を破壊混亂せしめられたる端緒にあり、進んでは、世界的金融恐慌の激浪に押されたる資本主義の一翼としての港灣運輸事業も亦、世界無産階級の消費購買力極度の減少による荷動きの緩慢によつて、歐洲大戦の好況時代に一攫千金の歩を見つつ尨大なる船腹を過剰せしめたる港灣資本家は、今やその過剰したる船腹の持場に困り、船隻失業等の、港灣労働者のためには忍ぶ能はざる生活の窮乏を強制するに至り、今日にあつては、港灣における中小船主の倒産日に増し募り、港灣労働者の生活は餓死的條件の下に追放してかへり見られざるの情態に立ち至つた。

しかも、我が港灣労働者は、第六十三帝國議會を通過し既に實施されつつある労働者災害扶助法からも見落され、其の他一切の保護法及社會施設から遠退けられたる情態にあり、まことに、我國産業にとつて重要な海外貿易の中樞的役割を演じつつある港灣労働者の生活の上に課せられつつある惨状は、目も當てられぬ有様の運糧に終始してゐる。この時にあつて、我が神戸港灣労働者は、團結の体力をもつてこの窮境を打開するの他、自己の生命を守り得る道なき事を考へ、組織へ、組織へとその目ざまじき進展を見せ、創立以來僅か四年にして組合員二千を突破するの勢力をもつに至つた。

然し我等は、この勢力を亂用して、世界經濟の傾向を無視したる行動をさけ、中小港灣資本家の營業を援け、大資本家の壓迫に對抗して、失業難の緩和に、貸銀の統制に全勢力を傾注する處にその運動方針を置き、部分け船夫の運賃統制に、團體協約に異常なる成果をおさめ、我が神戸海友同志會の健全なる労働組合主義の偉容を磨練する事に専念し、

又政治的には、海上居住者選挙権の獲得運動にも、日本港灣従業員組合聯盟の運動に歩調を合せて急速にその運動の効果をおさめ、或はそれを通じて労働者災害扶助法の摘要に對する運動も着々とその効果をおさめつつある。

更に、昭和七年度における我等の足跡に注目される事は、昭和六年度に比し罷業を行なはずして單なる交渉によつて、非常なる労働條件の改善がなし得てゐる事である。

これは云ふまでもなく、我が神戸海友同志會の組織勢力が、戦はずして勝つ時期に到達しつつあるの證左である。この勢力の進展する處、やがて神戸港灣における一切の運賃及労働條件が、我等の力によつて統制される時代が来るであらう事が豫想される。

一、諸會議報告

A

昭和七年度第三回年度大會

日時 昭和七年四月十七日

承認事項 一、事業及會計報告 二、人事移動に關する件
決議事項

- 一、同一労働に同一賃銀の支給制度確立の件
- 二、労働時間制限に關する件
- 三、無料職業紹介機關設立に關する件

五